

一般混合物と同じに

FA製造手順

大林道路
田中鉄工
水添加だけで発泡

大林道路は、加熱アスファルトに水などを添加し発泡させることで体積を増やす「フォームドアスファルト（FA）」の製造装置を改良した。アスファルトプラントメーカーの田中鉄工（佐賀県基山町、古賀武志社長）と共同開発。既存のアスファルトプラント設備と一体化し、一般的なアスファルト混合物と同じ手順でFA混合物が製造できるようにした。水の添加量を高精度で管理し品質を確保。製造側の省メンテナンス化にもつながる。

FA混合物は加熱アスファルトに水や水蒸気、発泡剤などを添加し発泡させる。骨材に対してアスファルト量が少ない場合にアスファルトと骨材が接触しやすくなり、冬季の施工対策や長距離運搬にも対応。混合物の製造温度が下げられ、加熱に必要な燃料消費も減らせる。

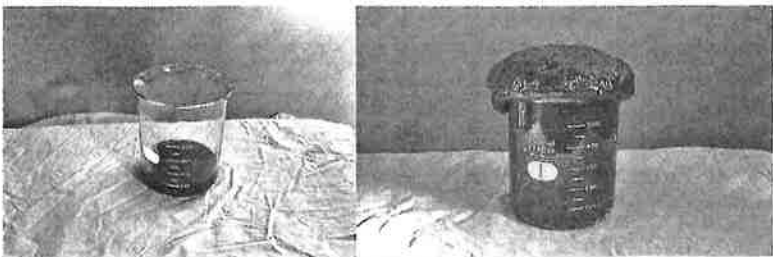
改良した製造装置は大林道路の大分センターアスコ（大分市）と北部アスファルト混合所（佐賀県基山

町）の2カ所に導入。フォームド装置の機能をアスファルトプラント操作盤に組み込んだ。大林道路は、水だけの添加で十分な発泡が得られると確認。施工性の改善効果も検証している。

一般的なアスファルトは中温化剤を使用すると合材単価が1ト当たり1000～1500円程度、FA技術で水以外の添加剤を使用すると同100～150円程度アップするという。大林道路の場合は水だけの添加で済むため合材単価に影響はない。

今後FAを積極的に導入する。2022年度以降、

全国の主要プラントに展開する考えだ。



元のアスファルトの10～20倍に膨張する（大林道路提供）

2022年3月1日付
日刊建設工業新聞 3面